



**正本 純さん**  
(35歳・牛窓町牛窓)

小さいころから花火を見てきて、それがなくなるとはさみしかったから、自分も手伝いたいと思い、花火あげ隊に参加しました。

お客さんには、最低限のマナーを守って、花火大会に参加してほしいと願っています。



**田村弘志さん**  
(40歳・牛窓町長浜)

明石の花火の事件から、安全面の経費が膨らんできて、資金集めに苦慮しているのが現状です。

でも、子どもたちが、楽しみにしている祭りだから、いつまでも続けたいし、続けてほしいと願っています。

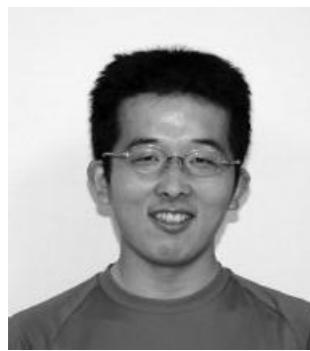
**高祖佳子さん**  
(牛窓町牛窓)

若い世代も頑張らないといけないと思い、参加しています。住民の皆さんの応援のメッセージを聞くと、とてもうれしいし、張り合いがあります。住民参加の牛窓花火大会に、できれば、もっと若い人が協力してくれたらと思います。



**横田紀子さん**  
(牛窓町鹿忍)

今年で3年目の参加となりました。関西からやってきて4年目。花火あげ隊の和気あいあいとした雰囲気がとても心地よく、参加してよかったと思っています。これからも住民の気持ちを大切に思い、喜んでもらうことをいろいろ考えていきたいです。



**尾田英俊さん**  
(26歳・牛窓町牛窓)

やっぱり、夏に花火がないと、さみしいですね。みんなにパワーをもらって、力を合わせて頑張っています。

ゆっくり落ち着いて見える、地元に着した花火大会にしたいと思っています。



**吉村政倫さん**  
(40歳・牛窓町牛窓)

自分たちの世代で、花火大会を終わらせたくないですね。住民が一体となって、花火にかかわってほしいです。子どもたちが、ポスターを描くのもその一つ。みんなが同じ方向を向いて、進んで行きたいです。



自分たちの祭りとして愛し続けたい

●特集 ころ一つに

みんなで力を合わせて

花火あげ隊の皆さんは、4月から大会前まで10回も会議を行い、花火大会成功に向けて、意見を出し合いました。大会を成功させるには、そして、みんなに楽しんでもらえるには、どうしたらいいか、隊員みんなが考えます。

一番の問題は、資金集めでした。市からの補助金200万円、募金目標350万円。2,000発の花火をあげるには、550万円の経費が掛かります。

みんなで手分けをし、団体や企業に協力を呼び掛け、募金を募りました。また、銀行や商店、市役所など160カ所に募金箱を置き、住民の皆さんにも、寄付をお願いしました。

7月23日には、牛窓の中浦にあるおみやげUOUO前の広場で、バザーを開催。炊き込みごはんや焼そばを販売し、資金の足しにしました。

自分たちの祭りで  
ありたい

「この牛窓のような住民参加型の花火大会は、全国でも珍しいと思います。今年も280万円の寄付をいただきました。皆さんに感謝し、来年も続けていきたいです」と話す隊長の柴田健志さん(40歳・牛窓町牛窓)。

市内40カ所に掲示されたポスターは、地元の小学生が描きました。大会前に道路脇で、ひらひらとたなびているのぼり旗は、地元の中学生が作製。他にも大勢の皆さんが、ボランティアで協力しました。

自分たちの祭りという意識のもと、地域住民が参加した牛窓花火大会は、今年も大成功を収めました。

大会まで、みんな走り回り、資金集めに四苦八苦。しかし、地域の皆さんの温かい支援があり、花火大会が実現しました。